

完了後の評価個表

整理番号	森9-1
------	------

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	沖縄県
地区名	国頭村	事業実施主体	沖縄県、国頭村、国頭村森林組合
関係市町村	国頭村	管理主体	沖縄県、国頭村
事業実施期間	H16～H20（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 国頭村は、沖縄本島最北端に位置し、東は太平洋、西は東シナ海に面し、村の中央部は本島最大の山林原野を有しており、沖縄県を代表する森林・林業地帯である。</p> <p>② 森林の現況 本村の森林面積16,471ha（森林率85%）のうち、民有林面積は12,522haで、森林全体の76%を占めており、内訳は私有林が3,572ha（28%）、村有林が5,602ha（45%）、県有林が3,348ha（27%）となっている。 民有林の人工林面積は2,715ha（人工林率22%）であり、年齢構成ではⅤ年齢（25年生）からⅪ年齢（55年生）の面積が2,385haで88%を占めている。</p> <p>③ 当地区を整備する目的・意義 当地区は沖縄林業の中核的な地域であり、また、林業が地域の雇用の場として重要な産業となっている。このため、森林資源の有効活用と林業経営の効率化に努めつつ、森林の有する公益的機能の高度発揮を図るためには、適切な森林整備が求められており、事業を導入したものである。</p> <p>（事業概要） 森林整備 植栽 44ha、下刈 480ha、除間伐 188ha、受光伐 11ha 樹下植栽 8ha、育成天然林改良 388ha</p> <p>森林管理道整備 ①伊江原線 車道幅員 2.0m 開設延長 1,994m 利用区域面積 38ha ②チイバナ線 車道幅員 3.0m 開設延長 2,991m 利用区域面積 124ha ③楚洲仲尾線 車道幅員 3.0m 開設延長 142m 利用区域面積 47ha（休止） ④奥山線 車道幅員 2.0m 開設延長 0m 利用区域面積 45ha（"） ⑤伊楚支線 車道幅員 2.0m 開設延長 0m 利用区域面積 44ha（"） ⑥吉波山線 車道幅員 3.0m 開設延長 0m 利用区域面積 68ha（"）</p> <p>森林施業道整備 ①伊江Ⅰ号支線 車道幅員 2.0m 開設延長 0m 利用区域面積 17ha（休止） ②伊江原支線 車道幅員 2.0m 開設延長 0m 利用区域面積 14ha（"）</p> <p>総事業費 1,555,229千円（当初総事業費 1,408,035千円）</p>
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成26年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 事業実施の結果、森林整備量が増加したことに加え、適正な保育管理を実施したこと から総便益、総費用ともに増大した。</p> <p>総便益（B） 7,701,047千円（事業採択時 3,591,776千円） 総費用（C） 3,067,888千円（事業採択時 1,425,518千円） 分析結果（B/C） 2.51（事業採択時 2.52）</p>
-------------------------	---

② 事業効果の発現状況	<p>本事業により植栽されたイジュ、イスノキ等の成長は良好で、天然林改良を行った箇所とともに健全な広葉樹林として育成されており、森林資源の充実とともに公益的機能の高度発揮が期待される。 一方、林道整備については、自然環境の保全との調和を図る必要があることから、環境保全対策等を検討する間、工事を休止しており、事業効果の発現については限定的となっている。</p>
-------------	--

③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>当事業により開設が完了した林道は沖縄県が管理主体であるが、沖縄県営林道管理要領に基づき適切に管理されている。概ね2年に1回程度の頻度で除草や側溝清掃等が行われており、管理状況は良好である。</p>
---------------------	---

④ 事業実施による環境の変化	<p>除間伐や天然林改良等の施業が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、明るく健全な森林に改善された。</p>
----------------	---

⑤ 社会経済情勢の変化	<p>本地域は、奄美・琉球世界自然遺産候補地の対象区域の一つ（沖縄島北部）に選定され、現在、世界自然遺産の推薦及び国立公園の指定について検討を行っているところである。</p>
⑥ 今後の課題等	<p>本地域は、これまでの森林整備により森林資源が充実してきており、今後も資源の利用に向けて除伐や間伐等の適切な森林施業を実施していく必要がある。 一方、世界自然遺産や国立公園の候補地となっていることから、その貴重な自然環境の保全について、より一層の配慮が求められており、森林資源の利活用と環境保全の両立に向けた多角的な方策の検討が課題となっている。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 当事業の実施後は、土砂流出防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与するなど、事業の効果が発揮されていることから、事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備及び林道の計画・施工に当たっては、最も効果的・効率的となるよう適切な内容・規模で実施されており、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 森林整備により、森林資源の充実が見込まれると共に、明るく健全な森林が維持されることで、公益的機能の高度発揮が期待されること。 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備のコスト縮減が期待されること。また、林道を利用して自然とのふれあいを楽しむ利用者が見られること。 以上のことから、事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 沖縄県

地域(地区)名: くにがみそん 国頭村

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,038,013	
	流域貯水便益	562,657	
	水質浄化便益	1,172,674	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,714,680	
	土砂崩壊防止便益	3,760	
環境保全便益	炭素固定便益	540,609	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	92,459	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	1,827	
	森林整備促進便益	305,008	
森林の総合利用便益	ふれあい機会創出便益	269,360	
総 便 益 (B)		7,701,047	
総 費 用 (C)		3,067,888	
費用便益比	$B \div C = \frac{7,701,047}{3,067,888} = 2.51$		

森林環境保全整備事業 概要図

国頭村地区(沖縄県)



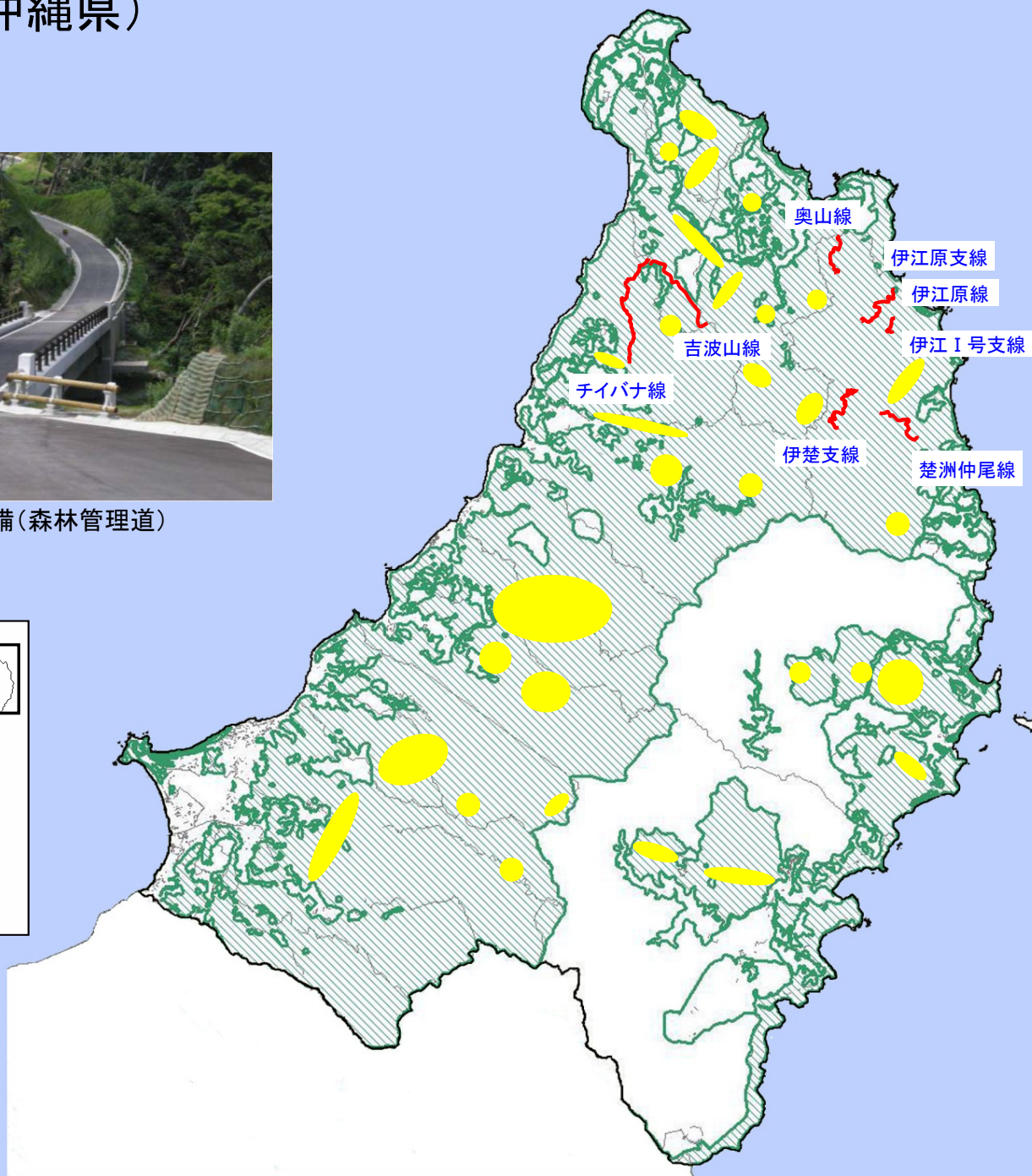
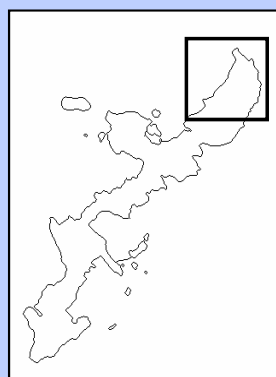
路網整備(森林管理道)




森林整備(育成単層林)



森林整備(育成複層林)



凡	例
計画区域 (市町村界)	——
事業対象区域	
路網整備	——
森林整備	